

最 優 秀

「第一歩」

北杜市立甲陵中学校 2年 月岡 華林

将来、私は国際関係の仕事に就きたい。だから、外国人が日本語を学ぶクラスへ2日間職場体験として行き、外国人との関わり方・交流の仕方を学んだ。

そこには、本当に様々な世界中の国の方がいた。中国人、アメリカ人を始めとし、韓国人、インド人、ベトナム人、カナダ人、フランス人、オランダ人、クロアチア人、フィンランド人、ウズベキスタン人、ザンビア人などなど、世界の大陸をぎゅっと1つにしたかのような異空間に居るようだった。それこそみんな、肌の色、顔の形から髪形やメイクの仕方、ファッションなど、何から何まで違っていて、独特で個性的だった。

しかし、どこの国の方も、私に習った日本語を使って積極的に話そうとしてくれた。私はそれに心を打たれた。小学校と中学校で英語を学び始めてから3年余り。だが、私には外国人のような積極性もなければ、度胸もなかったから、外国人に知っている英語の単語すら話すことができず、そこで『第一歩』を踏み出すことができなかった。とても情け無かった。一方で外国人は、まだ日本語を習って4ヶ月しか経っていないのにも関わらず、先生に聞いたり、携帯電話で検索したり、ということをしてまでも、私に「日本語」で伝えようとしてくれた。本当に、素直に心から嬉しかった。それと同時に、まず、心持ちが違う、そう思った。だから、私も外国人を見習ってまず使うという『第一歩』を踏み出さなければいけないと思った。ホームステイに行く時や東京オリンピック。そこまでの遠く、大きなところではなくとも、まずは、自分の住んでいる町や、観光へ行った場所などの身近な場所で『第一歩』を踏み出したい。

今回、その『第一歩』を踏み出す時に大切なことが分かった。それは、誰も平等に見るということだ。それをするために国民性を少しでも知ることが大切だと思う。ここの国の人だから、あそこはああだから、という風に見てはいけないということだ。前にも書いた外国人が積極的なのも国民性が関係する。例えば、何かを断るとき、日本人は「うーんと、そうですね・・・」などとい

った回りくどい遠回しな言い方をする。一方でアメリカ人は、「ノー」のたった一言で解決する事もあるだろう。これは、決定的な国民性の違いだと言えるだろう。だからと言って、それが良い訳でもなく、悪い訳でもない。産まれた土地、その他の環境は違うのだから、考え方が同じとは限らないし、違うとも限らない。違うのが当たり前、と受け入れるのが良いのではないだろうか。さて、国民性と言っても、国民の性格に限らない。その国の歴史や土地の環境によって、国民に共通して見られる気質のことを言う。だから、宗教や言葉も国民性の一つとして良いだろう。日本は、憲法で信教の自由が認められており、国教はない。一方で、キリスト教、イスラム教、その他の宗教が国教となっている国がある。キリスト教徒はお祈りをしたり、イスラム教徒は口にはいけない食材があったりする。それらを私たちが理解しなければ、日本で観光する事が大変困難となってしまいうだろう。嫌な思いをさせないためにも国民性の理解は必要だ。自分が把握しきれていない事があればたずねたり、なんでも言って下さい、と声をかけるのも『第一歩』となるだろう。日本語は一語一語がはっきりしている。英語には日本語にはない、子音を続けて発音するものがある。日本語にない英語の発音を日本人がするのは難しい。それと同じように「h」を普段発音しないフランス人が日本語を発音するのは難しいそうだ。私の名前「かれん」と言うのにも「がれん」に聞こえて、一度言い直したら、クラスの先生が「フランス人は「h」を発音しないから」とおっしゃった。そこで初めて自国語の発音の特徴を知った。

これらは、私が職場体験の1日目、活動や先生へ質問をして感じたことだ。2日目からは、1日目よりも意識して行動できた。外国人が分からなかった所を知っている範囲の英語で置き換えて説明したり、ヒジャブを巻いている女性はイスラム教徒と理解できたり、フランス人を始めとする「h」を発音しない国の方の日本語を理解して意識するようになりしたりした。そうしたら、1日目より更に楽しい時間を過ごすことができた。毎日行って外国人と交流したい！と心の底から思った。今回の体験を通して、私に合った、人の役に立ちながらも楽しめる、そんな天職に就きたいという意思がより強くなった。どんな仕事があるのかを探し、それを目指して勉強に励みたい。